

第3回南砺市教育振興基本計画策定委員会会議録

1. 日 時 平成27年2月9日（月） 午後3時から午後4時40分
2. 場 所 南砺市役所井波庁舎 3階301会議室
3. 出席者 ・委員12名
水上義行 委員、長谷川総一郎 委員、田中一昭 委員、土居敬生 委員
村田玲子 委員、唐嶋田鶴子 委員、山本均 委員、長谷川邦子 委員、
大塚保夫 委員、武田和一 委員、千秋謙治 委員、名村桂子 委員
・事務局7名
高田勇（教育長）、豊川覚（教育部長）、酒井啓行（教育総務課長）、
浦辻一成（生涯学習スポーツ課長）、山森伸正（文化・世界遺産課長）、
笠井学（教育総務課副主幹）、山越哲也（教育総務課副主幹）
4. 欠席者 ・委員1名
島田勝由 委員
5. 傍聴人数 0名
6. 協議事項 (1) 南砺市教育振興基本計画（修正案）について

○開会

○挨拶

（水上委員長）

第3回目ということで、この間皆さん方には多くの意見をいただきました。また、議会の皆さま方のご意見をいただきまして南砺市らしいものが出来上がりつつある。今日はいよいよ最終段階に来ている。修正案が出ていますので修正案に基づいて協議を進めさせていただきたい。

○協議事項

※教育部長から説明

○閉会挨拶

（高田教育長）

策定委員会の皆さま方には本当にお忙しい中慎重にご審議いただき、私達の気づかない点にもご意見をいただきました。本当にありがとうございました。これで終わったわけではなく、これがスタートであるという認識であります。あくまでも基本計画でありますので、向う5カ年の3つの課のフレームづくりをさせていただいたという考えで基本計画を策定させていただいた。皆さま方には3回にわたり貴重なご意見をいただきました。ありがとうございました。

質疑・意見

委員	3ページの5文化財の現状と課題の2行目ですが「なくてはならないものです。」とあるが「守り続けていくものです。」のほうが良いのではないかと。
委員	「守り続けていく」の方が積極的な雰囲気がある。
委員	5ページの(1)確かな学力の育成の【現状と課題】のところですが「小学校から」とあるが「小学生の時から」ではないかと。
委員	思いは同じだと思います。
委員	7ページの教育の機会均等の「特別支援学級に通う児童生徒の給食費や学用品購入費等を助成し」とあるが「経済的理由により就学困難な児童生徒の保護者に学用品や給食費等の援助を行います。」とは別のことかと。
事務局	別のことです。
委員	9ページの不登校の年次推移に「1,000人当たりの出現率」とあるがこの数字で良いのか。
事務局	数字はパーセントなので10倍した数を人数と考えていただければ良いが、表記の仕方については検討します。
委員	11ページの【数値目標】読書活動の推進の学校図書館図書貸出冊数の達成状況は毎年把握しているのか。
事務局	毎年定期的に調査している。
委員	読んだ本の冊数の方が良いのではないかと。
事務局	市の総合計画の指標に合わせている。
委員	2ページに「⑤学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たし、相互に働きかけることで教育力をさらに向上させること。」とあるので、取組みに子どもを育てる地域力をもう少し取り入れてほしい。
委員	学校では総合的な学習の時間等に地域の方を招聘し、教えていただいている。
委員	地域の中で出来ることはないのか。
事務局	学校教育ではふるさと教育がメインになっている。生涯学習では放課後子ども教室に力を入れている。スポーツ少年団も地域の指導者に教えてもらっている。文化では伝統芸能を守っていくために地域のお祭りをとおして子どもたちを育てている。
委員	保育園でも地域の方にお茶などを習っている。
委員	全部文章にすると膨大なものになる。
委員	もう一歩前に進めるには具体化したほうが良いと思うが。
委員	あくまでもこれは基本である。細かくしすぎるとやらせになってしまう。
委員	ある程度学校に含みをもたせた方が良い。
事務局	実際計画にないこともやっている。
委員	33ページに五箇山民謡「こきりこ」「麦屋節」が書いてあるがここまで書く必要はないのでは。五箇山民謡だけでも良いのでは。

委員	当初は固有名詞が上がっていなかったのでは。
委員	議会の委員会で見解がでた。
委員	この教育振興基本計画は基準になっていく。単純な方がよい。
委員	29ページは福光美術館だから棟方志功、石崎光瑤の2人なのか。
事務局	福光美術館だからです。
委員	埋蔵文化財センターも展示機能をもつので、28ページは「福光美術館など」にしてはどうか。32ページに埋蔵文化財センター〇〇館とあるが地域の特性を示したような愛称をつけたほうがよい。
委員	市の歴史や成り立ちが語られるのは埋蔵文化財センターですか。
委員	専門の学芸員のいない施設が多い。
委員	南砺市に文化財がたくさんある。集落のお宮さんにもたくさんある。まとめた施設があればよい。
委員	25ページの利賀フェスティバルとスキヤキ・ミーツ・ザ・ワールドの写真があるが写真を見ただけでは何の写真か分かりにくい。
委員	南砺市の素晴らしい風土を受け継いでいかなければならないと感じるが、困った時に自分達で解決できる方法を見つけることが大事。学校教育では生きる力を育てていくことを何年も前からお聞きしている。忍耐だけでなくたくましさも必要ではないか。
委員	自立する人間をどうつくっていくかということを根底に考えて地域社会が本腰をいれてやらないといけない。自分の力で育てていく子どもにすることが教育の基本です。
事務局	学校教育に特化したリーフレットがまもなく出来上がる。その中では、「たくましさ」「いじめゼロへの取組み」「仲間と共にくましく生きるなんとなつ子」などここに入れさせていただいた。リーフレットで補充させていただきたい。
委員	自他を尊重するとは自分に力をつけないとできない。健やかな体と言っても心身ともにが込められている。実際現場で参考にするものがあればより具体的にかなりよい。
委員	「取組み」の「み」はいるのか。
委員	統一してあればよいと思う。
委員	子どもが自分を肯定して他人を認めていくということは自分自身がしっかり周りから愛されていることが基本になる。最近、家庭においても十分子どもに伝わっていない。学校や家庭で学べないことは地域力を活用してほしい。
委員	保育園の問題は民生部なのでこの計画に取り上げていないのですか。今後一つにしていかなければいけないと思う。
事務局	将来的には保育園も教育委員会でやっていくという話が出ている。子ども子育て支援計画とは整合性をとっている。
委員	積極的に物事に興味・関心を持って、その中で自分の考えを言っていける人間を育てていくことが基本だと思う。

